

トピック②

健康状態の満足度

—QOL向上のための道標として—

政策統括官(経済社会システム担当)付

参事官(総括担当)付

横山 純子*

主観的な健康状態の満足度

現在日本の平均寿命は、世界でも最高水準にある。超高齢社会を進み行くこのような状況下で、人生をいかに心豊かに生きるのか、すなわちQOL (Quality of Life)、生活の質の向上のためには、健康に過ごせる期間をどれだけ長く保てるのかが、私たちの大きな課題である。この課題へとアプローチし得る、心の豊かさを表す指標のひとつが、「健康状態の満足度」である。

さて、「健康」という言葉には様々な定義がある。病気でないこと、身体的に丈夫であること、精神的能力を十分発揮できることなど、コンテキストや個人の主義によっても表現される「健康」は変化する。そこに付随する自身の健康状態への「満足度」もまた同様に、その感覚や認識は個人によって千差万別であるため、QOL向上に資する「健康状態の満足度」は、例えば医学的な検査などにより示される客観的な数値だけでは、十分に見えてこないものであるといえる。

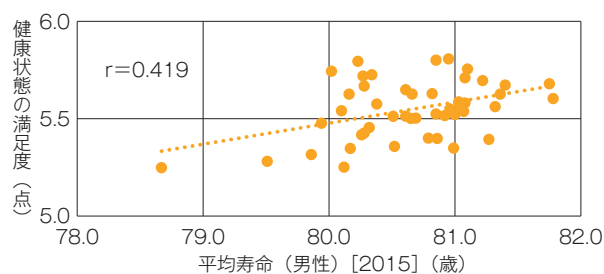
そこで、内閣府の「満足度・生活の質に関する調査」では、国際的にもGDPでは捉えられない人々の満足度や生活の質を描き出そうとする試みが活発化していることも受け、上述のような「健康状態の満足度」を含めた、質的・主観的な国民の生活満足度についての見える化を試みている。

本稿では、本年9月11日に内閣府が公表した『「満足度・生活の質に関する調査」に関する第4次報告書』を基に、国民の生活満足度のうち、「健康状態の満足度」に関して得られた示唆の一部を紹介する。

健康状態の満足度と平均寿命の関係

まず、都道府県別の「健康状態の満足度」と平均寿命との関係(図表1)をみると、相関係数が男性では0.419、女性でも0.343と、正の相関を確認できる。これは、自身の健康状態に対する満足度が、平均寿命という客観的に観測される現象に何らかの影響を与えている、あるいは受けている可能性を示唆している。

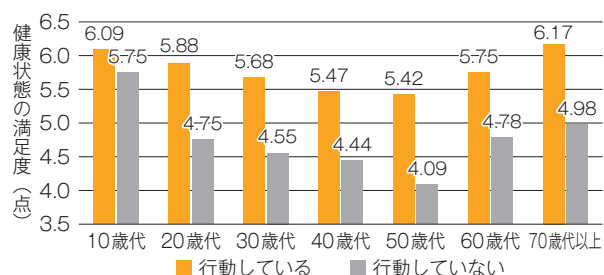
図表1 都道府県別健康状態の満足度と平均寿命(男性)の相関



健康のための行動と健康状態の満足度の関係

次に、健康のために行動しているかどうかと「健康状態の満足度」との関係(図表2)をみると、行動している人の満足度は、どの年代においても行動していない人に比べて高くなっており、50歳代はその差が顕著である。ここで言う「健康のための行動」とは、バランスのとれた食事、十分な睡眠、適度な運動をすることや、タバコを吸わない、お酒を飲みすぎないなどの行動を指す。特に20歳代以降では、このような行動をとることと自身の健康状態が密接に関わっていると認識され、行動することで満足度が高まり、また高まった満足度がさらなる行動を促している可能性がある。また、70歳代以上においては、他年代に比べて行動している人の満足度が高く、これは前項の平均寿命との相関や、あるいは介護予防に関する取組の成果、世代間の運動習慣や文化の違いなど、様々な要因や結果の表出と考えられる。これらは、主観的な満足度と行動との関係についてさらなる分析による可能性を感じさせる、大変興味深い結果である。

図表2 健康のための行動と健康状態の満足度



おわりに

本稿では、質的・主観的な満足度が、量的・客観的に観測される現象や行動の要因や結果となり得るという示唆の一部を紹介した。目には見えないが人々の内面には確かに存在する「満足度」が、あるいはエビデンスとして用いられ、今まで以上に人々の生活に寄り添い、またより多くの人のQOL向上や、心の豊かさへと繋がるような政策立案・評価の一助となることを期待したい。

横山 純子 (よこやま あやこ)

* 福山市役所より内閣府に派遣